

経営比較分析表（令和元年度決算）

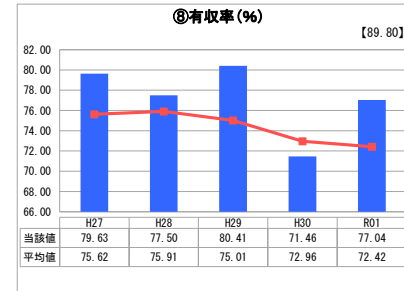
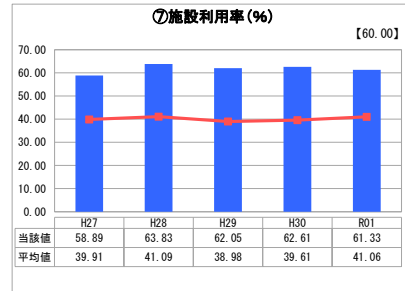
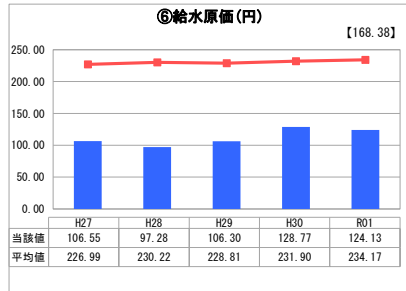
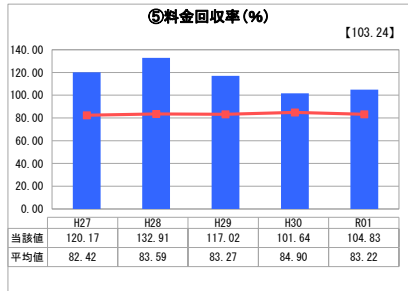
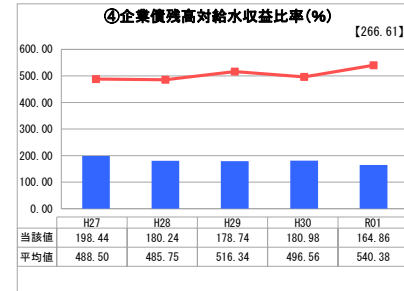
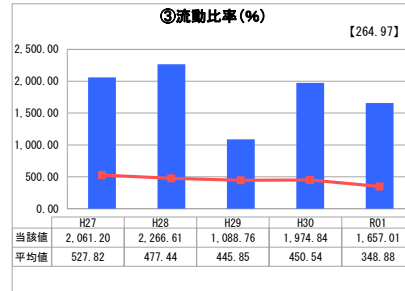
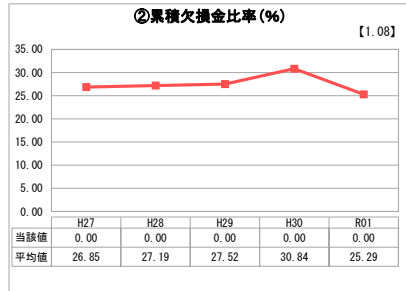
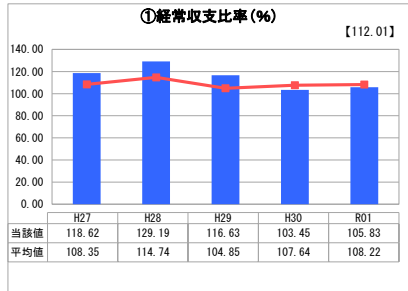
北海道 知内町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.60	99.72	2,978	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,290	196.75	21.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,200	26.73	157.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を上回り給水収益で費用を賄い切れているといえるが、今後も健全経営を続けていくための改善点の洗い出しが必要である。

②累積欠損比率
累積欠損金は発生していない。

③流動比率
短期的な債務に対する支払能力を表す指標であり、100%以上であることが必要である。最近は減少傾向にあるが、1000%を超えており支払能力は十分である。

④企業債残高対給水収益比率
近年、設備新設により企業債が増加したため比率も大きくなったが類似団体平均、全国平均を下回っており経営には問題はない。

⑤料金回収率
給水に係る費用が給水収益で賄えているかの指標で100%を上回る必要がある。料金回収率が100%を上回っており適切に料金収入が確保できている。

⑥給水原価
類似団体平均から下回っており、また⑤の料金回収率も100%以上であることから適切な数値と判断する。

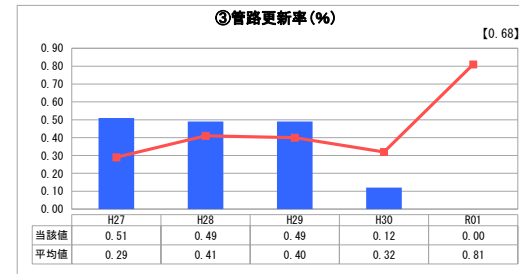
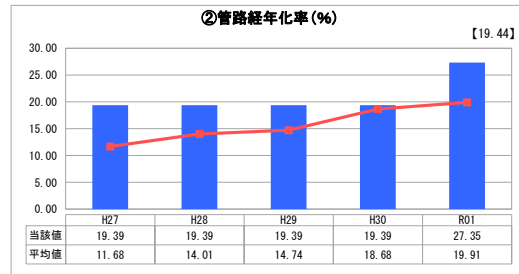
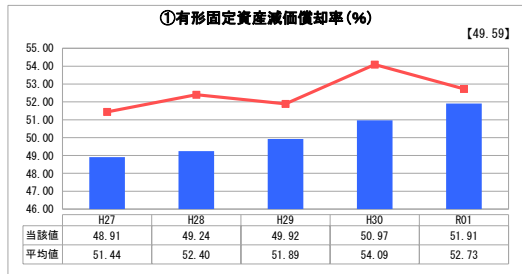
⑦施設利用率
類似団体の平均を大きく上回り、全国平均並みの利用率である。施設規模は適正である。

⑧有収率
総配水量に対する収益に結び付く配水量の割合であり100%に近いほど良い。前年度に全国平均を大きく下回ったが、漏水対策により大きく改善された。今後においても、より一層の対策を講ずる必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率ともに増加傾向であり老朽化資産が増えている事が分かる。管路更新率はR1では管路の更新はなかったが、今後は耐用年数を迎える経年管路の更新により増加していくことが見込まれる。更新にあたっては、単純に耐用年数で判断することなく重要度、修繕履歴などから更新の優先を判断する必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

現状では健全な経営状況であるといえる。しかしながら、今後は長期人口減少社会の到来等による水需要の減衰や老朽管路更新費用の増加など経営を取り巻く環境は厳しさを増してくことから、これらの諸課題に対応するため、水道ビジョンや経営戦略に基づき、効率的で安定的な事業運営に引き続き取り組む。